

話題がいっぱい!
なかゆくい



6/5(金) 家具・寝具で地域に寄り添う

開業59周年を迎える株式会社大川から浦添市母子生活支援施設浦和寮へ家具や寝具の寄贈があり、その贈呈式が市長応接室で行われました。

サンエー浦添西海岸パルコシティに店舗を展開したのをきっかけに、地域の生活設備サポートが出来たらと考え、寄贈する計画が持ち上がったとのこと。

外間幸一代表取締役社長は「様々な事情で入所に至った世帯に役立ててもらいたい。今後も継続して支援をしていきたい」とあいさつし、大城喜江子施設長は「新しい家具や寝具で入居者の気持ち安らぎ、生活を組み立てることにつながる」とお礼を述べました。



6/1(月) 国勢調査に向けて始動しました

令和2年10月1日を基準日として、5年に1度の国勢調査が全国一斉に実施されるのを前に、浦添市実施本部の辞令交付式および設置式が行われました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、厳しい調査環境が見込まれますが、報告される調査数値は、法定人口として今後5年間、行政運営や民間企業等における需要予測、大学機関等の研究に活用されるため、国民の生活に深く関わっていく大切な調査となっています。

浦添市においては、499人の調査員が必要なため、引き続き国勢調査員を募集しています。



5/29(金) 地域に親しまれてきた証

浦添市立図書館が日本建築家協会のJIA25年賞を受賞しました。この賞は25年以上にわたり建築の存在価値を発揮し、美しく維持され、地域社会に貢献してきた建築物に送られる賞です。

図書館の共同設計者の一人である山城東雄さんは「図書館の建物は、浦添城の高麗瓦をモチーフに沖縄の古民家の要素を取り入れている。地元の人々に愛されてきたことで頂けた賞です」と感謝の言葉を述べ、上里隆史館長は「図書館開館35年の節目に、時を積み重ねて評価されることは感慨深い」と思いを語りました。



6/8(月) 長年にわたる地域サポートへの感謝状

地域住民の福祉向上と自治会の運営に尽力された自治会長退任者6人と永年勤続者1人への感謝状贈呈式が中央公民館で行われました。

松本市長は「今、住みやすい生活環境があるのは自治会長の皆さんが地域の発展のため献身的に取り組んでいただいた成果のおかげだと思います。今後ともそれぞれの立場からお力添えを賜りますよう宜しくお願いします」と感謝と労いの言葉を述べ、大平自治会に18年間携わった佐久川正健会長は「皆様のおかげで無事に任期を全うでき感謝申し上げます。自治会は今後も地域の活性化や安心安全のため必要性が増してくると思います。今後の活躍を期待しています」とあいさつしました。



6/6(土) 企業を応援! ラジオ「スタートアップ浦添」

浦添市が実施した創業者支援のサポートを受けて、市内外で活躍している起業家を紹介するラジオ番組が6月限定で全4回にわたりラジオ沖縄で放送されました。市制施行50周年を記念し、多くの市民に起業に対する興味を持ってもらうための企画で、市内で開催した創業ビジネスコンテストを受賞した起業家たちが事業を立ち上げる決意に至った背景や、事業にかけた思いを伝えました。

市では浦添商工会議所、金融機関等と連携し、起業家たちのビジネスの発展を支援しています。創業に興味がある人は浦添市の創業支援ポータルサイト「スタートアップ浦添」をぜひご覧ください。



5/28(木) 感謝の思いをおいしいカタチに

「ありがとう&がんばろう」食事券の贈呈式が市役所で行われました。この食事券は、新型コロナウイルス感染症拡大の中、市民の「食」を支え続けた飲食店へ応援の気持ちと、市民の社会生活維持のためにご尽力いただいた人々へ感謝の気持ちを込めて贈呈いたしました。

松本市長は「市内にはおいしい食事を提供して下さる飲食店の皆さんがたくさんいます。双方にとって、お互いの笑顔の交換にもなるように、しっかりとおいしいものをたくさん食べて、栄養を付けてまた頑張ってもらいたい」と思いを込めました。



5/25(月) メジロの赤ちゃんが産まれたよ

浦添市西原の棚原良助さん(86歳)宅にある白いブーゲンビリアの木に巣を作っていたメジロの雛が4羽誕生しました。5月20日に巣と卵を見つけ、大興奮で翌日市役所に写真を持ってきてくれました。それから毎日見守っていたところ、25日の朝に卵がふ化しているのを発見。かけつけた家族もかわいい雛たちの姿にみんな大喜びでした。

棚原さんは「見つけた時はとにかく嬉しかった。自分の孫だけでなく、市内の子どもたちにもこの感動を分かち合いたいと思った」と笑顔で話してくれました。今後も親鳥が雛にエサをあげるのを見守りながら、雛たちが巣立つ日を心待ちにしているそうです。